段階５	計測器と計時装置の目盛りをゼロに合わせる。ジョブ表に従ってジョブを１つ実行（印刷）する。計時装置が15分経過したことを示すまで待機する。	スリープ	ジョブ１の消費電力量 １枚目の用紙が、機器から排出されるまでの時間	復帰、稼働、稼働準備（レディー）
段階６	段階５を繰り返す。	稼働準備（レディー）	ジョブ２の消費電力量 １枚目の用紙が、機器から排出されるまでの時間	同上
段階７	段階５を繰り返す（稼働時間の測定なし。）。	稼働準備（レディー）	ジョブ３の消費電力量	同上
段階８	段階５を繰り返す（稼働時間の測定なし。）。	稼働準備（レディー）	ジョブ４の消費電力量	稼働準備（レディー）、スリープ
段階９	計測器と計時装置の目盛りをゼロに合わせる。機器が最終スリープモードに入ったことを計測器又は機器が示すまで待機する。	稼働準備（レディー）	最終時間（最終ジョブ開始の15分後から最終スリープモードに入るまでの時間） 最終消費電力量	—

（注記）

段階１：測定誤差を低減するために、オフの測定時間を延長してもよい。オフ時の消費電力はＴＥＣ計算に使用されないことに留意する。

段階２：機器に稼働準備（レディー）インジケータが装備されていない場合、消費電力値が稼働準備水準に安定するまで待機する。

段階３：１枚目の用紙が製品から排出されるまでの時間を記録した後、残りのジョブを中止してよい。

段階５：ジョブの開始から計測して15分とする。機器は、計測器と計時装置の目盛りをゼロに合わせる５秒以内に、消費電力の増加を示さなければならない。これを確実にするために、目盛りをゼロに合わせる前の印刷開始を検討する。

段階６：スリープから稼動準備（レディー）への移行遅延時間がごくわずかである機器は、段階６～８をスリープから開始してよい。

段階９：機器に複数のスリープモードが装備されている場合は、最後のスリープモードを除くすべてのスリープモードが最終時間に含まれるが、スリープモードが１つしかない場合は、最終時間にスリープモードは含まれない。

画像の送信：各画像は個別に送信される。同じ書類上の画像を使用してよいが、それらの画像が単一画像の複製であってはならない。

ファクシミリ：１ジョブにつき１画像を使用する。簡易複写機能を使用するため、その測定用画像の用紙を原稿送り装置に入れなければならないが、測定開始前に準備してよい。原稿送り装置が無い場合は、その用紙をプラテン上に置く。

表(2)

手順		段階の初期状態	記録（段階の終了時）	測定される状態
段階１	機器を計測器に接続する。計測器の目盛りをゼロに合わせる。試験開始を待つ（５分間以上）。	オフ	オフ時の消費電力量 機器のスイッチを入れるまでの時間	オフ
段階２	機器のスイッチを入れる。機器が稼働準備(レディー)モードに入ったことを示すまで待機する。	オフ	—	—
段階３	画像が少なくとも１つあるジョブを複写するが、ジョブ表に従い、ジョブを１つだけ実行する。機器が最終スリープモードに入ったことを計測器が示すまで待機する。	稼働準備（レディー）	１枚目の用紙が、機器から排出されるまでの時間	—
段階４	計測器の目盛りをゼロに合わせて、１時間待機する。１時間経過する前に機器がオフ状態になった場合は、スリープ時の時間と消費電力量を記録する。その場合も、段階５に移る前に１時間待機する。	スリープ	スリープ時の消費電力量 スリープ時間	スリープ
段階５	計測器と計時装置の目盛りをゼロに合わせる。ジョブ表に従ってジョブ（複写）を１つ実行する。計時装置が15分経過したことを示すまで待機する。	スリープ	ジョブ１の消費電力量 １枚目の用紙が、機器から排出されるまでの時間	復帰、稼働、稼働準備（レディー）、スリープ、自動オフ
段階６	段階５を繰り返す。	稼働準備（レディー）	ジョブ２の消費電力量 １枚目の用紙が、機器から排出されるまでの時間	同上
段階７	段階５を繰り返す（稼働時間の測定なし。）。	稼働準備（レディー）	ジョブ３の消費電力量	同上
段階８	段階５を繰り返す（稼働時間の測定なし。）。	稼働準備（レディー）	ジョブ４の消費電力量	同上
段階９	計測器と計時装置の目盛りをゼロに合わせる。機器が自動オフモードに入ったことを計測器又は機器が示すまで待機する。	稼働準備（レディー）	最終消費電力量 最終時間（ジョブ４開始の15分後から自動オフに入るまでの時間）	稼働準備（レディー）、スリープ
段階10	計測器の目盛りをゼロに合わせる。試験時間が終了するまで待機する（５分間以上）。	自動オフ	自動オフ時の消費電力量	自動オフ